

## 報告事項（1）

# 平成29年度事業報告

## I 事業実施概要

当協会はオストメイトのQOL向上を目的とした各種の公益事業を実施しているが、平成29年度に重点的に実施した事業として、相談・講演事業においては、若いオストメイトを対象とした交流会開催の強化を行なった他、第29回全国大会においては、フリーアナウンサーの中井美穂さんの対談を公開行事として実施した。

広報啓発活動においては、既存広報物につき時期を得た情報提供や、社会にアピールする情報発信等を目的に、ホームページやポスターやリーフレット等の見直し・更新を行なった。

社会適応訓練事業は当協会の基幹事業として各支部で開催したが、講習会・相談会等の開催回数も、都道府県および政令市からの事業受託額も減少した。

また、調査・研究事業においては、平成22年来となるオストメイト実態調査を全国の会員・非会員を対象に、従来のストーマ装具を中心とする調査から、当協会が必要とするオストメイトの日常生活における調査項目を新たに設定して調査を実施した結果、約600名から回答を得た。

尚、オストメイトマークは、平成29年7月にJIS Z8210（案内用図記号）として、「オストメイト用設備」と新たに「オストメイト」を表すマークとして登録された。

## II 公益目的事業

### 1. 講演会、相談助言事業

#### 1. 講演会・講習会

支部においては地域の実情やオストメイトのニーズに応じた講演会や講習会を、別表記載の通り実施した。また、第29回全国大会（埼玉大会）では、公開講座として「ストーマとの生活を経験した私にできること」をテーマに中井美穂さん（元フジテレビアナウンサー）と故高石道明元会長との対談を開催し、好評裡に終了した。

#### 2. 相談助言事業

相談助言事業の円滑な遂行のため、ピアサポート基礎研修会を横浜市支部と神奈川支部で、オストミービジター（OV講習）を神奈川支部で実施した。また、ピアサポート基礎研修会のテキストの内容の統一化については、神奈川支部、横浜市支部、奈良県支部のテキストをベースに統一素案の作成を行なった。

一部の支部では院内サロン等の医療機関と連携した相談助言活動を、例年に引続いて実施した。また、兵庫県支部では、先生方の講演内容の詳細を「ストーマ生活に役立つ医療講演集」として冊子化し広く配布した。

### 2. 広報啓発事業

#### （1）会報紙の発行

計画通りに会報紙を年6回、各15,000部を発行し、会員その他関係機関・関係者に配布した。内容も若いオストメイトへの情報提供や、日身連を通じた要望書や回答内容、オストメイト用トイレの建築設計標準の改正内容の解説等、会員のニーズに沿った会報紙の発行に努めた。

支部においては、支部会報の発行により、地域に応じた情報の発信に努め広報・啓発活動

を行なった。

## (2) その他の広報活動

ホームページにより公益事業を含む協会の組織・運営状況の情報公開に努めたが、時期を得た情報提供については課題となった。このため、自主運用によるホームページへの更新に向けた検討を開始した。また、佐賀県支部のオストメイトハンドブック作成記事が地元新聞2紙に掲載される等、協会活動のPRを行った。

また、今年度もがん関係団体等のイベントにおいて広報活動を実施した他、オストメイトへの理解を深めるために、業界団体に計2回の講演を実施し啓発に努めた。

## 3. 社会適応訓練事業

当協会の中心的事業として地方自治体の委託を受けて、全国各地においてオストメイトやその家族及び関係者等のニーズに応じた講演会、講習会、研修会や相談会等を別表記載の通り開催した。講習会や相談会等の全国での開催回数は約17%減少、都道府県および政令市からの事業受託総額は196百万円で、前年に比し約4百万円減となった。

## 4. 国際交流事業

### (1) 助け愛活動

モンゴルのオストミー協会ヘストーマ装具等を計4回（12ケース・245個）送付した。

### (2) 国際交流

アジア・南太平洋オストミー協会（ASPOA）第3回会議が、3月31日・4月1日の両日、韓国ソウル市でアジアストーマリハビリテーション学会と共催で開催され、総計15名が参加、アジア・南太平洋地域のオストメイトとの交流を図った。

## 5. 調査研究事業

### (1) オストメイト生活実態調査

全国のオストメイトの1,300名を対象に、生活実態についてアンケート調査を実施し、概600名から回答があり集計を行った。調査結果の詳細は来年度に行う。

また、一昨年度に実施した市町村を対象としたアンケート調査結果の集計結果を活用し、福祉向上や災害対策等の日常活動に役立てる支部もあった。

### (2) 会員増強に寄与する広報活動検討

当協会の活動目標や活動内容等を会員のみならず全てのオストメイトや一般の方にアピールする広報活動として、既存広報資料からポスターとリーフレット（オストメイトの皆さんへ）の更新を行なった。

### (3) オストメイトマークおよびオストメイトトイレ

オストメイトマークについてはかねてから、所轄団体である（公財）交通エコロジー・モビリティ財団にJIS案内図記号への登録を要望して来たが、平成29年7月20日に従来の「オストメイト用設備」の表示マークに加え、「オストメイト」の表示マークとしてJIS Z8210（案内用図記号）として登録された、

また、国交省においてはバリアフリー新法の特定建築物への建築設計標準を見直しを実施したが、本見直しによりオストメイトトイレについても建築設計標準が見直されたため、国交省を訪問し説明を受けると共に、意見交換を行なった。

## 6. 若いオストメイトを対象とした事業

現在置かれているオストミー協会の現状を打破するためには、若いオストメイトの知恵と行動が頼みの綱となっている事を考え、現役世代でも活動できることに目を向ける必要がある。また、20/40部会が、各支部の若いオストメイトに呼びかけ、若いオストメイトのQOLの向上に寄与することが、20/40の置かれている立場と認識して下記の活動を実施した。

### (1) 情報収集と発信

本部会紙は、交流会の活動状況、イベント情報を掲載。ブログやSNS（ソーシャル・ネット・ワーキングサービス）等を利用して情報提供を行った。

1月にホームページを開設した。若いオストメイトに役立つ情報提供を主眼に、イベント情報など簡単に検索でき、情報発信と同時に、情報収集の場としても、ホームページの充実を図っていく。

### (2) 『若いオストメイト交流会』の開催等

なるべく近くの部会員が、『若いオストメイト交流会』のサポートに行かれるように、部会員を増やした。今後もサポーターを増やしていきたい。

全国大会の埼玉大会にて、若いオストメイトの交流会を開催し、29年度は、初めて開催した支部が、4支部と昨年に引き続き広がりを見せてきている。

参加者も10名弱から30名強と開催支部により差はあるが、3支部で各1名ずつではあるが入会があった。

一方では、毎年の開催がマンネリ化して参加者は言うに及ばず、入会も望めない現状も垣間見られる。

初めての開催支部には、20/40部会が、ポスターの作成のサポート、当日のサポーターの派遣等を行い、交流会開催に協力した。

### (3) 若いオストメイトのためのガイドブックについて

今までは、20/40フォーカスグループに登録した者のみが入手できた「若いオストメイトのためのガイドブック」は、協会に入会すると同時に59歳までの年齢の会員にも、若いオストメイトのガイドブックを発送することとした。

現在の会員には、各支部からの名簿を基に順次発送する。

## 7. 諸団体との連携

### (1) 地方公共団体との連携

①障害者差別解消法は、平成28年4月1日に施行され国のガイドラインが提示され、地方自治体においては、障害者へのバリアーをなくした共生社会実現のため条例策定が進むが、支部においては地方自治体が行う意見交換会への参加や、事例収集への協力を行なった。

②障害者総合支援法については、一部の市町で施設入所者に対しストーマ装具の給付が行なわれない不具合が判明、対象支部においては不具合解消のため、要望活動を実施し改善を図った。

### (2) 諸団体との連携

#### ①日本ストーマ連絡協議会

JSSCR とストーマ用品セイフティーネット連絡会（OAS）、及び当協会（JOA）で構成する日本ストーマ連絡協議会では、年3回の定期協議を行なった。平成29年度は災害時の公的備蓄用ストーマ装具の標準化をJSSCRに依頼してきたが取り纏めには到らなかった。

#### ① 医療者との連携

支部顧問医で構成する顧問医会と連携し、支部顧問医や地域のET/WOC ナースの協力を得て、社会適応訓練事業、ピアサポート活動、オストミービジター活動を実施した。

また、一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会（JWOCM）から、平成30年4月1日から改定される診療報酬について、医療保険を利用して、在宅オストメイトに対し訪問看護師が行うストーマケアに、皮膚・排泄ケア認定看護師が同行・指導を行う際の指導料が、新たな診療報酬の項目として中医協で提案・審議中であるとの説明受け当協会への協力要請があった。

このため、厚生労働省に実現を求める要望書を提出した。尚、本件は、平成30年4月1日から新たな診療報酬の項目となったが、オストメイトが通院や入院しなくても、在宅で、皮膚・排泄ケアの指導の下に訪問看護師からストーマケアの看護を受けることが可能となった。

## ② 介護団体との連携

介護士によるストーマケア研修は、千葉県においては千葉県支部が県からの委託事業として実施の他、兵庫県・愛知県・横浜市ではJSSCRが実施する研修会の開催に協力した。この他にも、JSSCRが実施したストーマケア研修が、各県で実施された。

## ③ 関係団体及び地域連携

日本身体障害者団体連合会を通し、政府（厚労省）に対する要望書3件を例年と同様に提出した。また、地域の障害者団体や、がん患者団体とも連携し、相談会やピアサポート活動にも参画した。

## III 災害対策

昨年は7月の台風3号による九州北部豪雨や、その後も度重なる台風により豪雨・暴風等の災害をもたらした。当協会では、オストメイトの災害対策として、従来から取組みのストーマ装具や災害時用のオストメイト用トイレの公的備蓄や、各自の使用装具の避難所等の公的施設への預託、更には販売業者との物資供給協定の締結等の実現に向けた要望を継続して実施し具現化も見られた。

また、災害時の応急救助として供給のストーマ装具の標準化について、JSSCR等への要望を行なって来たが具体化には到らなかった。

更に、各地で行われる避難訓練にも参加して、オストメイトの実情を知ってもらう活動も継続している。

## IV 会 務

### 1. 会員・組織整備

#### (1) 会員増強

会員増強については、支部長会議やブロック会議のテーマとして採り上げ、各支部での活動をお願いしているが、昨年年度末の実績は末尾の、IV項支部活動に示すとおりで、前年比で概370名が減少した。

対前年で増化した支部は11支部でその増加会員の数は13名に留まり、5支部が同数、他の支部で減少し7400名規模となった。

#### (2) 組織整備

会員数の減少と高齢化等により支部運営に問題となる支部もあり、また財政的に恵まれない弱小支部もあることから、会員組織委員会を中心に対応を協議した。

一方で、支部役員の世代交代、若手支部役員の積極的な登用を図る支部（茨城県支部、関西支部等）もあり全国的な展開が望まれる。

## 2. 経理処理業務

### (1) 平成28年度決算処理の不具合

平成28年度決算については、第29回社員総会において承認を得たが、その後、決算額に変更は無いものの、公益事業の事業間で不適切な仕訳が判明、仕訳変更後、再度決算処理を実施した。

### (2) 業務委託契約

公益社団法人への移行当初から、経理処理業務については、経理処理ソフトへの一部支部の代行入力や仕訳チェック、予算・決算処理等について、外部会計事務所に業務委託をしてきたが、平成29年11月末をもって業務委託が終了となった。

協会の運営には適法な経理処理が必須であることから、委託業務内容の見直しを行うと共に、平成30年4月1日から新たな業務委託契約を締結し、コンサルティング業務や内閣府等への定期提出資料提出業務、決算書作成業務等につき業務委託を行なう。

## 3. 内閣府公益認定等委員会の立入検査

公益社団法人の事業運営状況や関係書類等の実地検証を目的とした内閣府公益認定等委員会の第2回目の立入検査を平成30年3月22日に受け、支部会計処理に関する重大指摘2件と軽微な指摘3件の改善指摘を受けた。特に重大指摘2件については、次回立入検査までの改善が必達であり、今後支部の協力も得て重点的に取り組む。

## 4. 全国大会・定時社員総会・臨時社員総会

第29回全国大会は計画通り、内閣府や厚労省等の後援も得て、平成29年6月11日（日）～12日（月）に埼玉県さいたま市で開催した。また、6月12日に第29回定時社員総会を開催し全議案について承認を得た。

期日	場所	行事内容
H29.6.11（日）	埼玉県さいたま市 大宮ソニックシティ	支部長会議、テーマ別交流会 （ストーマ種別交流会、若いオストメイト全国交流会）、オストミー製品展示、支部活動展示、懇親パーティー
H29.6.12（月）		式典、定時社員総会、展示賛助会員紹介、中井美穂氏対談、アトラクション、

尚、決算処理後判明した公益事業の事業間で不適切な仕訳を修正した決算書について、平成29年度第1回臨時社員総会を、平成29年10月2日、午前11時30分から、東京都港区の東京都障害者福祉会館において開催し承認を得た。

## 5. 支部長会議

平成29年度の第7回支部長会議は、第29回全国大会初日の平成29年6月11日（日）に、埼玉県さいたま市で、49名の支部長の参加を得て開催した。

支部長会議では、「看護・介護職のストーマケア在宅支援研修の現状と課題- オストメイトの老後の不安解消と終活対策-」と、「平成28年度会員増減・社適事業開催報告書」をテーマに開催した。

特に、「看護・介護職のストーマケア在宅支援研修の現状と課題- オストメイトの老後の不安解消と終活対策-」においては、名古屋大学教授・前川厚子先生の講演と、千葉県支部長、神奈川県支部長、兵庫県支部長、愛知県支部長、横浜市支部長、和田元会長からの事例発表とパネルディスカッションを実施した。

## 6. ブロック会議

平成29年度のブロック会議は、①「ワールドオストミーダーの取組みについて」、②「会員増強に向けて」、③「訪問看護師と介護職向けストーマケア研修会について」を共通テーマに下記の日程で開催した。

尚、会議で出た意見・要望については、本部回答を各支部に連絡した。

ブロック名	開催日	幹事支部・開催場所
北海道	9月28日・29日	帯広支部・十勝ガーデンズホテル
東北	9月24日・25日	山形県支部・天童ホテル
関東	10月28日・29日	横浜市支部・横浜あゆみ荘
北陸信越	10月26日・27日	新潟県支部・ホテルルートイン糸魚川
東海	10月28日	愛知県支部・名古屋市「八神製作所本社」
近畿	10月22日	滋賀県支部・草津まちづくりセンター
中国	10月15日	島根県支部・出雲ロイヤルホテル
四国	11月4日	高知県支部・高知市保健福祉センター
九州	11月14日	鹿児島県支部・ホテルタイセイアネックス

## 6. 50周年記念事業

互療会設立来50周年を記念した全国大会を、2019年6月8日（土）～9日（日）に東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターのセンター棟と国際交流棟において開催することに決定した。

また、互療会創立以来のあゆみ等を記した記念誌の発刊のため、特別委員会を設立し、編集作業を進めた。

## IV 支部活動

### 平成29年度支部活動状況

	支部名	講演会 講習会 (回)	相談会 (回)	体 験 交流会 (回)	宿 泊 研修会 (回)	日帰り 研修会 (回)	会 報 発 行 (回)	本年度 入会者 数(人)	本年度 退会者 数(人)	29.3月 末会員 数(人)	社 適 受託料 (円)
1	旭川	4	4	0	1	0	6	3	5	45	191,000
2	札幌	2	8	2	1	0	6	22	22	197	180,000
3	帯広	2	0	0	0	0	6	2	0	20	108,000
4	青森県	5	0	1	1	0	6	4	9	122	397,000
5	岩手県	9	13	8	0	1	6	6	22	186	814,770
6	宮城県	0	8	0	1	0	6	5	7	74	241,700
7	仙台市	1	5	5	1	1	6	4	7	82	210,000
8	秋田県	5	0	1	1	5	4	8	8	88	162,400
9	山形県	2	17	1	1	0	4	2	4	44	150,000
10	福島県	10	12	1	1	0	6	15	13	160	183,300
11	茨城県	7	0	4	1	0	5	22	34	301	305,500
12	栃木県	7	6	4	1	0	6	5	21	110	430,000
	支部名	講演会 講習会 (回)	相談会 (回)	体 験 交流会 (回)	宿 泊 研修会 (回)	日帰り 研修会 (回)	会 報 発 行 (回)	本年度 入会者 数(人)	本年度 退会者 数(人)	29.3月 末会員 数(人)	社 適 受託料 (円)
13	群馬県	1	7	2	1	1	6	6	12	102	293,000
14	埼玉県	4	5	1	0	0	6	32	45	291	482,000
15	千葉県	8	37	0	0	1	6	25	55	387	1,018,000
16	千葉市	4	10	1	1	1	6	14	13	94	272,000
17	東 京	5	1	1	0	2	6	20	45	420	707,000
18	三多摩	5	1	2	0	0	6	7	28	207	368,000
19	がん研	0	0	0	1	3	1	4	2	41	0
20	神奈川	12	4	0	2	0	6	20	35	377	300,000
21	横浜市	6	6	1	1	1	6	17	39	389	460,000
22	川崎市	4	0	3	1	0	5	7	8	115	120,000
23	山梨県	2	2	2	0	0	6	5	0	39	267,460
24	新潟県	8	9	9	1	0	6	10	25	193	412,000

25	富山県	5	24	1	1	0	4	4	4	67	280,000
26	石川県	3	7	2	1	0	6	3	8	73	280,000
27	福井県	2	0	4	1	1	4	3	4	38	231,600
28	長野県										
29	岐阜県	2	2	2	1	0	6	6	9	59	100,000
30	静岡県	7	0	1	1	0	3	7	6	125	670,000
31	愛知県	9	0	2	0	0	6	13	20	185	568,000
32	三重県	2	0	0	2	3	0	8	13	62	290,000
33	滋賀県	7	0	3	0	1	6	11	9	93	306,000
34	京都府	4	11	4	0	1	6	13	22	197	945,000
35	関西	1	1	4	1	1	6	21	49	275	0
36	兵庫県	7	79	12	1	1	6	19	30	411	1,189,000
37	奈良県	5	22	10	1	0	6	11	19	128	134,000
38	和歌山 県	2	4	0	0	0	6	3	3	78	159,000
39	鳥取県	1	0	0	0	0	0	0	6	55	389,000
40	島根県	2	1	2	0	2	0	0	0	35	400,000
41	岡山県	3	6	13	0	3	6	7	17	143	266,000
42	広島県 東部	3	0	12	0	2	6	4	8	51	105,250
43	広島県	1	7	1	0	2	6	11	15	147	231,500
44	広島県 呉	4	12	0	0	1	6	8	3	52	84,200
45	山口県	6	1	0	0	0	4	4	16	94	424,000
46	徳島県	2	2	1	1	4	6	9	7	48	200,000
47	香川県										
48	愛媛県	1	1	1	0	0	6	2	9	74	111,000
49	高知県	2	2	2	1	0	6	2	4	55	240,000
50	福岡県	13	11	0	1	0	6	6	15	193	1,188,000
51	福岡市	13	12	0	0	0	3	5	7	88	453,903



52	佐賀県	2	84	1	0	2	6	4	7	86	213,000
	支部名	講演会 講習会 (回)	相談会 (回)	体 験 交流会 (回)	宿 泊 研修会 (回)	日帰り 研修会 (回)	会 報 発 行 (回)	本年度 入会者 数(人)	本年度 退会者 数(人)	29.3月 末会員 数(人)	社 適 受託料 (円)
53	長崎県		0	0	0	0	1	1	1	55	514,286
54	熊本県	2	40	6	1	0	3	5	3	88	192,000
55	大分県	4	1	0	0	0	6	1	8	73	500,000
56	宮崎県	4	13	3	1	0	2	2	9	66	544,000
57	鹿児島 県	3	8	0	0	0	8	4	6	90	326,000
58	沖縄県										
	合 計	242	506	136	33	40	279	462	796	7,368	